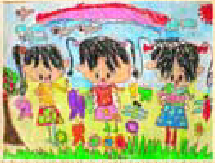
NIE特集
Newspaper In Education
毎月第2・4火曜日発行

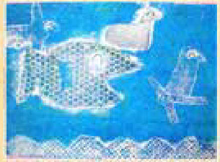
ドキドキ
小学生！
プラタナス
3つの美徳
正直
親切
勤勉

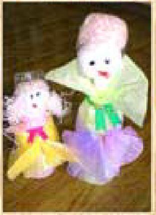
岩沼小

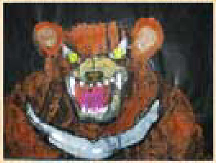
学校名　岩沼市立岩沼小学校
所在地　岩沼市中央２の１の１
電　話　0223（22）2145
校　長　石田　弘
児　童　739人

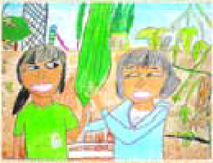
うきうきキャンバス

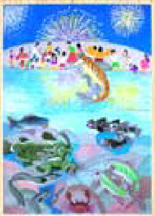

ともだちとあそんだよ　2年　高尾朱音


夢の世界　4年　川上泉


おとぎ話の世界　3年　八島友揮


くま　6年　大友孝洋


育てたヘチマ　5年　大久野々花


河をきれいに　6年　川野辺真子

五穀豊穣の神の使い

竹駒神社の狐伝説を探る！

知り隊

私たち岩沼小の学区には、稲荷神社で有名な竹駒神社があります。鳥居を入るといつも見慣れた「お狐さん」ですが、そのお狐さんには伝説があると先生に伺い驚きました。身近な所にあるのに、全然知りませんでした。私たちは狐伝説のことや、狐がくわえているもの、なぜ好物の油揚げが有名なのかなどについて調べてみたいと思いました。

竹駒神社の神主の一人、佐藤央子さんのお話では、昔は竹駒神社の周辺は山で、本当に狐がいたということです。「神社の裏山には今でも狐の住んでいたという洞穴があり、大切に祭っています」と話されていました。

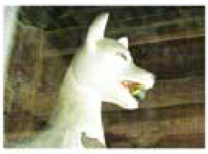
狐穴は年に1度だけ、立春祭のときに宮司さんと年男の人たちが入ることを許されています。私たちも行ってみましたが、竹やぶの奥で、鍵がかかっていて中には入れませんでした。

竹駒神社で取材する児童たち

開運の「鍵」くわえる

「稲荷」は「イネが生った」ことによりついた名前で、五穀豊穣の神様としての信仰が始まりです。狐はその穀物を食べるネズミを食べてくれることから穀物の守り神として大切にされました。白狐は、竹駒神社の大神様の使いとしてあがめられています。「油揚げ」は、揚げたときの狐色＝金色という意味があり、穀物を運び金色の狐に変身するということで狐の好物になったそうです。

竹駒神社入り口の親子の狐は、自分たちはほかの狐とは違って特別なんだ、と新え神の使いにしてもらったそうです。「お狐さんがくわえている『鍵』は開運をあける鍵、玉は宝珠（玉）とよばれ宝物を表しています」というお話に、みんな大きくうなずきました。


「宝珠」をくわえる狐

◇　◇

身近にある竹駒神社ですが、伝説を聞けば聞くほど私たちはその魅力にとりつかれました。竹駒神社は、元朝参りに始まり、初午大祭、秋季大祭とあり、一年中たくさんの人でにぎわいます。古くから伝わる伝説の意味を考えながらお参りすると、今までと違った感じがしました。みんなから大事にされてきたことを、あらためて実感するとともに、これからも神社だけでなく地域の行事も大切に守っていきたいと思いました。

文・高橋怜、水戸彩那佳、木皿智絵、大友綾祐、早坂勇樹（6年）

言い隊

■校歌や校訓を大切に■

わたしたちが通っている岩沼小には、明治37（1904）年に制定された「正直」「親切」「勤勉」という三つの校訓があり、みんなで大切にしています。明治42（09）年に制定された校歌の中にも、この校訓が歌詞として入っており、校歌を歌うたびにかみしめています。

この校歌は、わが子を見守る親たちの目線で書かれた詞で、このように育ってほしい、このように教えを受けなさい、という親の気持ちがとても込められています。

おじいちゃんやおばあちゃんも歌った校歌、そして校訓を、わたしたちも大切にしていきたいと思います。

（6年・嶌田ひとみ）

■言葉のルール作ろう■

言葉って、すごいちからを持っていると思います。たった一言で人は変わることができるし、変わってしまうことがあるからです。

言葉のちからをうまく使わないと、だれかが傷ついたり、悲しんだりします。例えば、言葉遣いに気を付けてみるとか、悪口を言わないとか、自分の中でルールを作ってみるといいと思います。それをみんながちょっとずつでも気を付けたら、毎日の生活の中で変わることがいっぱいあるんじゃないかと思います。

言葉のちからをうまく使えるように、みんなで思いやりの言葉のルールを作ってみませんか。

（6年・須田琴乃）

教え隊　お祭り集会

店を設け下級生歓迎

「いらっしゃい」と呼び込み（昨年のお祭り集会）

岩沼小には「お祭り集会」という行事があります。4、5、6年生の各クラスが、いろいろなお店を出して下級生に遊びに来てもらう行事です。お化け屋敷や迷路、劇、的当てやプラ板遊びのお店などが出されます。

お祭り集会は毎年11月にあり、10日ほど前から準備を始めます。どんなお店にするかは各クラスごとに話し合い、自分たちで決めます。どのクラスも協力し、一生懸命作るので準備するのもとても楽しい時間です。時間は2時間と短いですが、全校が一緒に楽しめるとても盛り上がる行事です。

文・鈴木真優（6年）

編集後記

あれこれと候補を出し、みんなでどんな記事を書こうかと迷いましたが、やっぱり僕たちの市で一番有名な竹駒神社の記事にしました。

狐の洞穴が直接見られなくて残念でしたが、案内していただいた神社の佐藤さんから、狐のお話やくわえているものなどについて詳しく伺うことができ、なんとか記事を完成させることができました。

新聞作りの楽しさを体験でき、とてもいい思い出になりました。このような機会を与えていただきありがとうございました。

〈編集委員〉高橋怜、水戸彩那佳、木皿智絵、大友綾祐、早坂勇樹、鈴木真優、須田琴乃、嶌田ひとみ
題字デザイン　草野達哉、鈴木梨乃
〈指導教諭〉　久光靖明、加藤玲也

次回（23日）は亘理小（宮城県亘理町）と築館小（栗原市）です。

新聞作りに参加する小学校を募集しています。申し込みや問い合わせは河北ＮＩＥ推進事務局022（211）1331へ。